

健康・医療戦略における 医療の国際展開及び医療ICTに係る主な取組

平成28年6月13日

健康・医療戦略に係る医療の国際展開及び医療ICTにおける主な取組

- | | | |
|----------------------------|-----|---|
| 1. 医療の国際展開(アウトバウンド・インバウンド) | ... | 2 |
| 2. 次世代医療ICT | ... | 8 |

健康・医療戦略における医療の国際展開及び医療ICTに係る主な取組

(2) 健康・医療に関する新産業創出及び国際展開の促進等に関する施策

3) 健康・医療に関する国際展開の促進

1. 医療の国際展開(アウトバウンド・インバウンド)

1. 平成27年度における取組

- 関係府省・機関の連携の下、日本の医療技術・サービスを海外へ展開するいわゆるアウトバウンドと、日本の医療機関に外国からの渡航受診者を受け入れるインバウンドを車の両輪として推進した。

2. 主要な成果

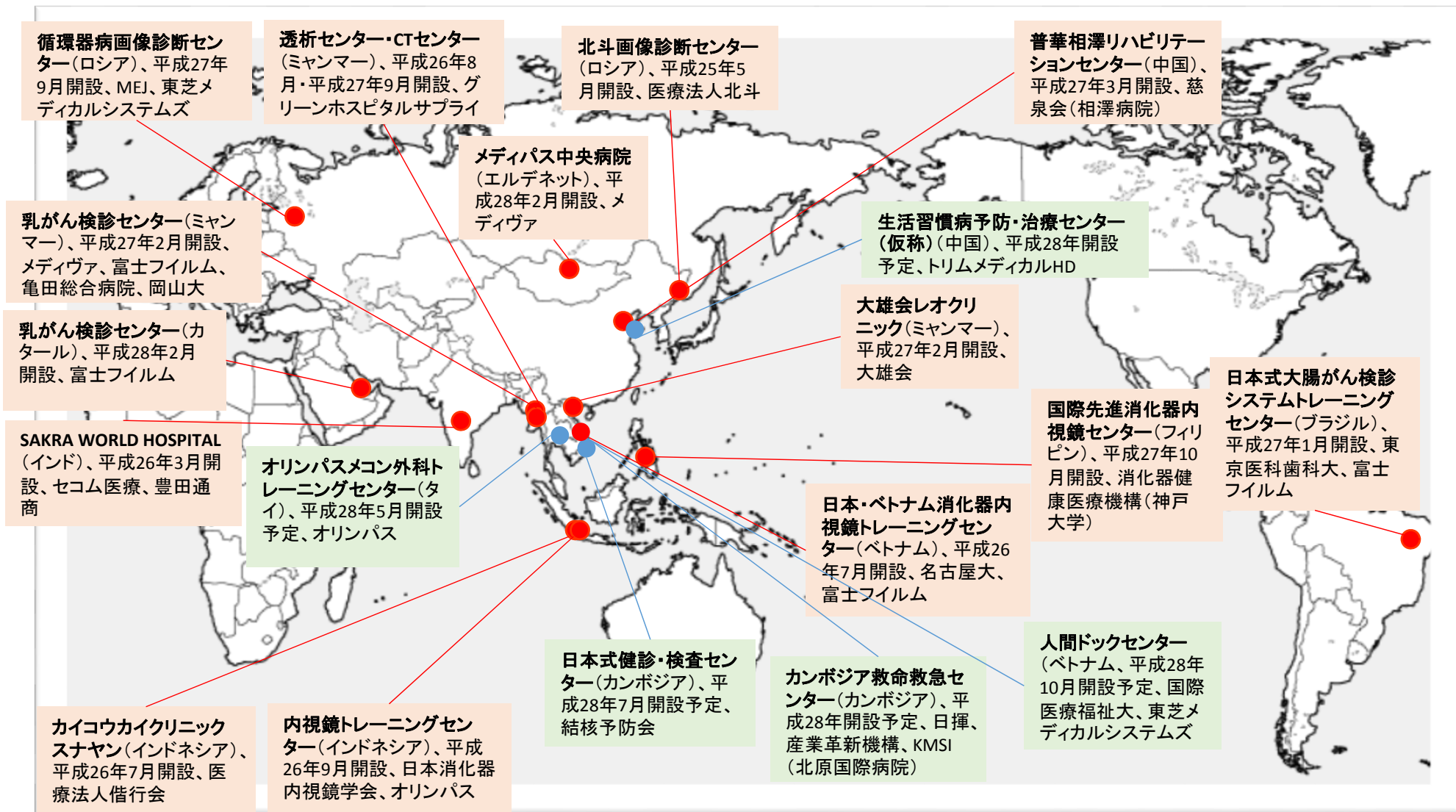
- 医療技術・サービスの拠点化などを推進し、これまでに10か所以上の医療拠点等を構築。
- 「医療渡航支援企業の認証及び渡航受診者受入医療機関の外国への情報発信に関する考え方」を策定し、MEJが認証組織として外国人患者受入等を一気通貫でサポートする医療渡航支援企業の認証を開始。
- 「栄養改善事業の国際展開検討チーム」を設置し、官民連携により栄養改善事業の国際展開を推進するための取組について検討実施。

3. 今後の取組方針

- 引き続き、医薬品、医療機器等及び医療・介護技術並びに医療・介護サービス等の展開、栄養改善事業の国際展開等を推進。
- 介護に関しては「医療国際展開タスクフォース」の下に「アジア健康構想ワーキンググループ」を設置し、アジア健康構想に向けた基本方針をとりまとめる。
- 意欲と能力のある国内医療機関を「日本国際病院（仮称）」として日本での医療技術・サービスの内容の発信等に取り組み、医療機関における外国人患者受入体制の充実等を図っていく。
- 情報通信技術や人工知能技術が医療分野、例えば医療機器・システム等に応用され、ロボット化・知能化された医療の実現に資する医療機器やシステムの開発及び国内・国外市場への浸透のための方策等を総合的に検討することを目的に、「未来インテリジェント医療分科会（仮称）」を設置し、予算に限らず国として支援すべき研究開発を推進する。

日本式医療拠点(政府支援に関わるもの) 平成28年3月現在

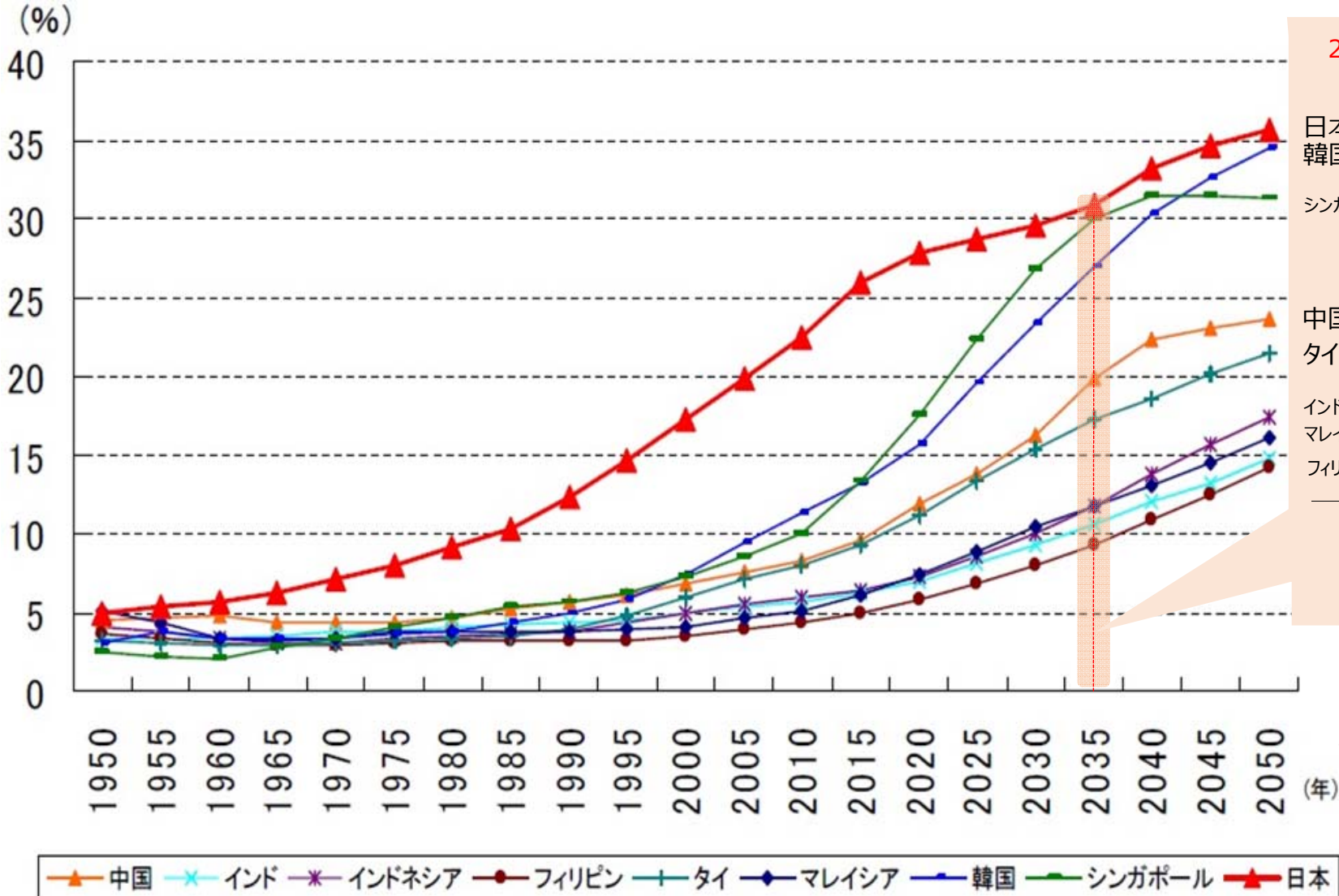
- 成長戦略の医療の国際展開に鑑み、「新興国を中心に日本の医療拠点について2020年までに10か所程度創設」「日本の医療技術・サービスが獲得する海外市場規模を2030年までに5兆円」に資するもの
- 中長期的に日本の医療機関・企業等が主体的に事業としておこなっていくことを想定しているもの
- 日本の医療が国際展開をする足掛かりとなる拠点(病院に限らない)例:人材育成を行うトレーニングセンター等で、医療機器等の売上げ拡大につながることを想定しているもの、介護施設等
- 平成27年度末時点で開業しているもの(■・●)、平成28年度内での開業が確定しているもの(■・●):合計19件



アジア健康構想について

アジア諸国の高齢化率の推移と2035年の高齢者向け市場*の推計

*「高齢者向け市場」= 「医療・医薬産業」+「介護産業」+「生活産業」



2035年の市場規模（予測）		
	高齢者率	高齢者向け市場
日本	30.6%	105兆円
韓国	26.1%	36兆円
シンガポール	25.5%	10兆円
中国	20.3%	292兆円
タイ	21.7%	17兆円
インドネシア	9.4%	23兆円
マレーシア	10.7%	8兆円
フィリピン	7.1%	6兆円
合計		496兆円

※上記数値はUnited Nations Department of Economic and Social Affairs Population Division World Population Prospects, the 2015 Revisionより抜粋

グラフ出所：「特定非営利活動法人アジア・エイジング・ビジネスセンター」2011年10月3日

アジア健康構想について

背景

- アジア地域: 急速に高齢化が進む。しかし、高齢化社会に対応する社会制度・産業等がほとんど存在せず。
- 日本: 高齢化に関わる社会制度・産業で先行。しかし、国内では、人材不足と保険財政の制約から介護事業者等の収益向上が困難。

目標

- 日本の事業者等の海外進出の支援を通じ、アジア地域に介護産業等を興すとともに、高齢化社会に対応する社会制度の構築について支援・協力を行う。
- その際、意欲のある人材が、先行する日本での教育・就労の後、アジア地域の介護産業等で就労する等、人材の国際循環を目指すとともに、結果として日本の介護人材の充実も図る。
- また、日本の事業者等の市場をアジアに拡大し、日本も高齢者関係産業の収益力を高める。

今後の進め方

1. 平成28年度

- ① 政府は健康・医療戦略推進本部の下に「アジア健康構想推進会議(局長級)」を設置(5月23日)。
- ② 自民党として「アジア健康構想」を提言(5月31日)。
- ③ 提言を踏まえ、健康・医療戦略推進本部において「アジア健康構想に向けた基本方針」を決定(7月下旬)。
- ④ 今夏以降、官民連携で「アジア健康構想協議会(仮)」を設け、介護事業者等の海外事業の安定、拡大等を支援。

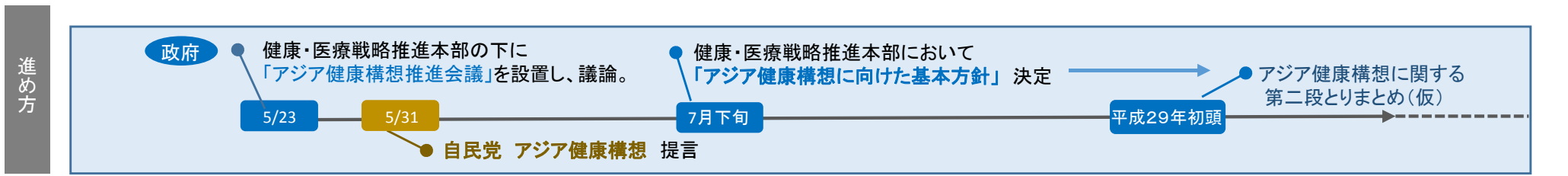
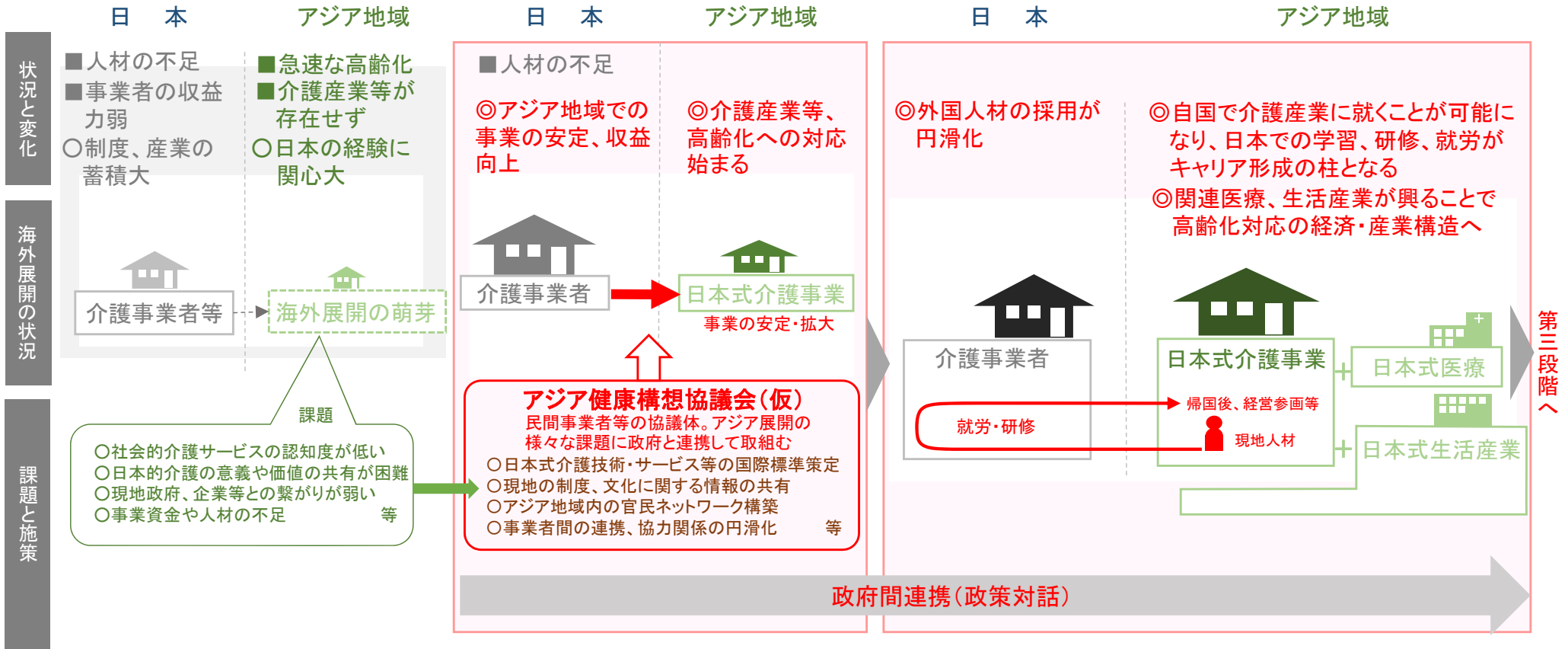
2. 平成29年度

日本が人材育成についてアジア地域での基軸となる方策を検討。

現在

第一段階(平成28年度～)

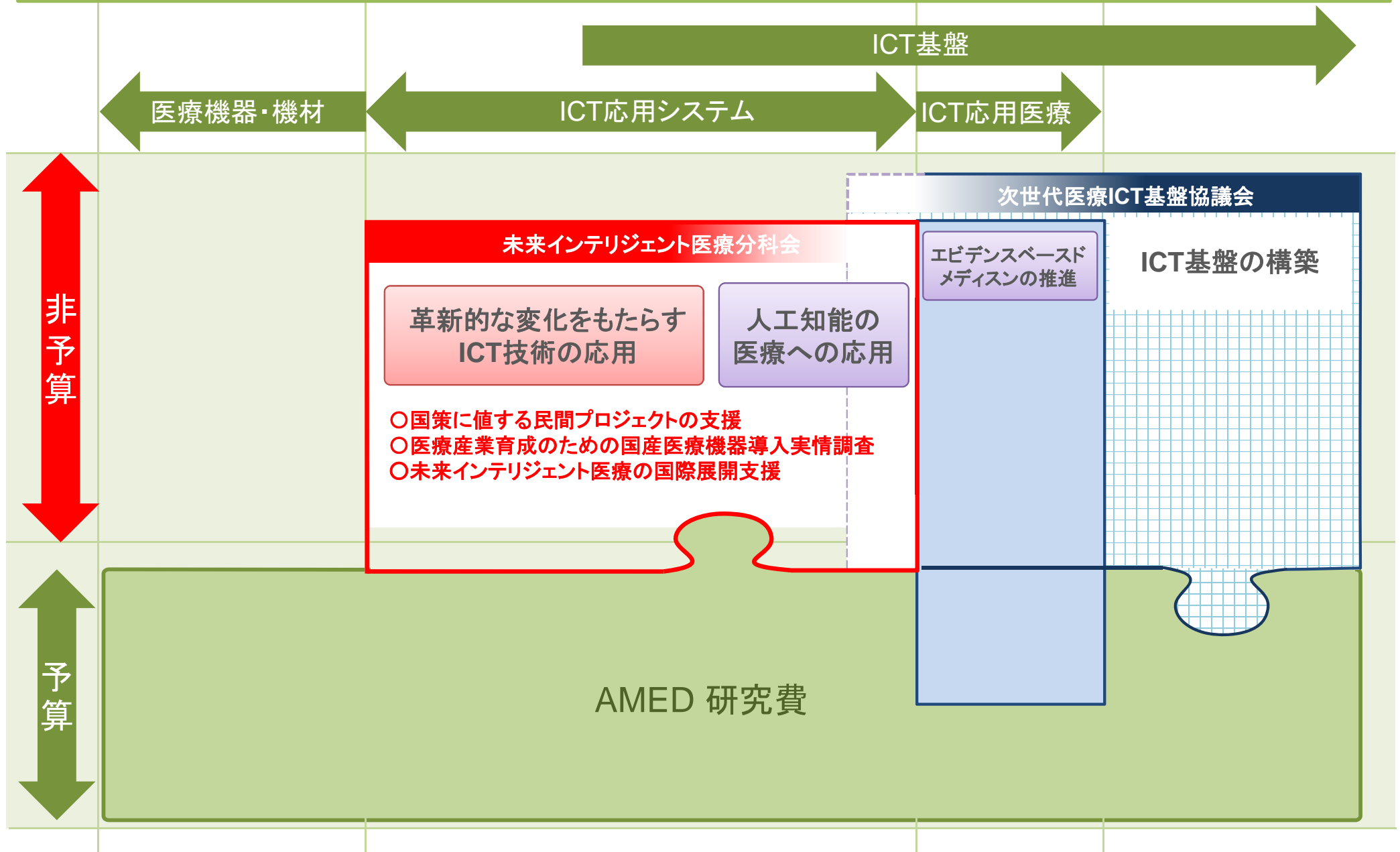
第二段階



未来インテリジェント医療分科会(仮称)の位置付け(案)

—「超スマート医療の実現」—

- 現在、医療機器の開発に関して医療現場のニーズ抽出・検討や、中小企業支援などの施策の下、医療機器・機材の開発が推進されているところ。
- 本分科会では医療ICTを活用した医療機器・システムとそれを基盤とした超スマート医療の実現に取り組む。具体的には主に中堅・大企業の開発支援としてのプロジェクト認定、開発された製品の日本・海外市場への浸透のための市場整備などを行う。



健康・医療戦略における医療の国際展開及び医療ICTに係る主な取組

(4) 世界最先端の医療の実現のための医療・介護・健康に関するデジタル化・ICT化に関する施策

- 1) 医療・介護・健康分野のデジタル基盤の構築
- 3) 医療・介護・健康分野の現場の高度なデジタル化
- 4) 医療情報・個人情報 の利活用に関する制度

2. 次世代医療ICT

1. 平成27年度における取組

- 医療・介護・健康分野のデジタル基盤の構築とその利活用により、医療の質・効率性や患者・国民の利便性の向上、臨床研究等の研究開発、産業競争力の強化、社会保障のコストの効率化の実現を図るため、「次世代医療ICT基盤協議会」を開催。（第1回：4月2日、第2回：12月25日、第3回：3月30日の3回開催）

2. 主要な成果

- 平成28年3月の第3回「次世代医療ICT基盤協議会」にて、厚生労働省が直接所管するもの及びナショナルセンターにおいて学会と協力して実施するもの等の様々な医療データベースについて、今後の第三者利用やデータ連携等の予定をとりまとめた「医療等分野データ利活用プログラム」を策定した。
- 「代理機関（仮称）」に係る制度を検討するにあたり、有識者からの意見聴取、論点整理等を目的に、「次世代医療ICT基盤協議会」のもと、平成28年3月に「医療情報取扱制度調整WG」（以下、WG-B）を設け、具体的検討を開始した。
- 「次世代医療ICT基盤協議会」の議論を踏まえつつ、大規模に医療等データを収集・利活用するための基盤構築にかかる研究事業をAMEDにおいて実施した。

3. 今後の取組方針

- WG-Bでの検討結果を踏まえ、平成29年中を目途に所要の法制上の措置を講じる。具体的な制度設計に当たっては、医療情報の特性に配慮した情報の安全な取扱いや、患者等の関係者の十分な納得の得られるものとなるよう、関係府省と一体となって検討を進める。
- 情報通信技術や人工知能技術が医療分野、例えば医療機器・システム等に応用され、ロボット化・知能化された医療の実現に資する医療機器やシステムの開発及び国内・国外市場への浸透のための方策等を総合的に検討することを目的に、「未来インテリジェント医療分科会（仮称）」を設置し、予算に限らず国として支援すべき研究開発を推進する。

問題意識

- 医療分野の高度化と効率化の両立による社会保障給付費の適正化は喫緊の課題。同時に世界最先端の臨床研究基盤を構築し、新しい医療技術・医薬品等を国内外の市場に展開する成長戦略的視点も重要。これらの両立には、臨床現場の徹底的かつ戦略的なデジタル化とともに、生成デジタルデータの戦略的利活用が不可欠。
- 現在、全国規模で利活用が可能な標準化されたデジタルデータは、診療行為の実施情報(インプット)である診療報酬明細書(レセプト)データが基本。診療行為の実施結果(アウトカム)に関する標準化されたデジタルデータを利活用することは、世界的にも重要な課題。(アウトカム=検査結果、服薬情報等)

目的

- ①【医療ICT基盤の構築】 アウトカムを含む標準化されたデジタルデータ(以下データ)の収集と利活用を円滑に行う全国規模の仕組みの構築。
- ②【次世代医療ICT化推進】 臨床におけるICTの徹底的な適用による高度で効率的な次世代医療の実現と国際標準の獲得。

効果

- 世界最先端の医療行政・医療サービスの実現。医療の状況の正確で精密な把握や遠隔医療による医療資源の偏在の克服等。
- 世界最先端の臨床研究基盤の実現。(独)日本医療研究開発機構と車の両輪で新しい医療技術・医薬品・医療機器の開発が加速。
- 【医療行政・医療サービス】
 - 医療資源の偏在(時間・距離)を克服した全国均一の高度で質の高い診療の実現
 - 科学的な根拠に基づく最適な治療の保険収載
 - 疾病の発生に即応した先制的な行政
- 【臨床研究／コホート研究】
 - 医薬品、再生医療 等、医療技術の開発促進(臨床研究の設計・実施の精密化、大規模化効率化、信頼性向上)
 - 効果的な治療方法の発見や科学的選定。個別化医療の実現。科学的根拠のあるヘルスケアサービスの振興
- 【新技術／新産業創出】
 - 個人のヘルスケアデータを管理・運営するサービス等の新産業創出／新しい医療技術や科学的発見

